

安岐町に企業進出

大阪府東大阪市に本社を置き、プラスチックや精密部品などの工業用樹脂の切削加工を行う宝工業株式会社（埜口正信代表取締役）が、国東市へ進出することになり、9月4日（火）、県庁で立地報告式が行われ、埜口代表取締役が広瀬勝貞知事と三河明史市長に工場設立の計画などを報告しました。

同社は、事業規模の拡大に伴い、安岐町馬場にある空き工場を買い取り、地元を中心に7人を雇用して、12月の操業開始を予定しています。



（左から）大濱博昭専務、埜口代表取締役、広瀬知事、三河市長、山本和徳県商工労働部長

カボス園地で初収穫

国東町小原の（株）ハマノ果香園（濱野光展代表取締役）園地で、8月22日（水）、県や市、流通関係者など約50人が出席して、カボスの初収穫を祝う「収穫祭・はさみ入れ」が行われました。

同社は、22haの荒廃したミカン園を造成して、平成21年には17,000本のカボスの苗木を植栽しました。植栽から3年が経過して、初めての収穫時期を迎えた今期は約60トン、5年後には550トンの収穫を見込んでいるとのこと。



はさみ入れたカボスを手に記念撮影

式では、濱野社長が「地域の皆さんのおかげで、収穫できるまでになりました。カボスの特性を活かして、果汁や果皮を再利用した加工食品も全国に売り出したいです」とあいさつ。小風茂副知事が「大分の中心産地になると期待しています」、三河明史市長が「将来的には搾汁工場もできて雇用が拡大することを期待しています」とお祝いを述べました。

武蔵大学 20回目の農業体験交流

9月3日（月）から5日（水）までの3日間、武蔵大学（東京都練馬区）の丸橋珠樹教授と学生6人が国東市を訪れ「農業体験交流」が行われました。

武蔵大学と武蔵町は「武蔵」という名前のつながりで、平成5年から交流を始め、平成14年から、農業体験や食事など地元の皆さんの協力で交流を続けています。

今回は20回目の記念として、清水敦学長も学生の皆さんと一緒に市役所を訪れ、三河明史市長と面談が行われました。

学生の皆さんは、市内に滞在中、長廣正光さん（丸小野）、横山克己さん（古市）、都留一真さん（麻田）、厚田健太郎さん（成吉）らの協力でネギやブドウの出荷、酪農などの農業体験を行いました。また、4日（火）の夜は、長廣さん方で、イノシシの肉を使ったバーベキューで楽しく交流を深めました。

長年、交流を支援し続けている長廣さんは「学生の皆さんは、ここで経験したことを今後にかしてもらいたいです。また、これからも交流を続けていきたいです」と話してくれました。



市役所を訪問



長廣さんから手打ち「うどん」づくりを習う学生